

## 2026年度 事業計画書

2026年1月1日 から2026年12月31日まで

特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN

## 1. 事業実施の方針

主なプロジェクトであるラオスのラオ・フレンズ小児病院（LFHC）の運営及び助成事業としてカンボジアのシェムリアップにある「アンコール小児病院（AHC）」への継続支援を行う。

LFHC は年間の来院患者数が昨年、のべ 45,000 人を突破。患者数の増加に伴う医療の質低下を避けるため、郡レベルでの医療施設で LFHC 同様の医療が提供できるよう他病院医療従事者への医療教育を継続して実施する。また、現地化に向けたラオス人リーダーのサポート（リーダー育成／教育）を強化する。リーダーを任されたスタッフの素質を伸ばせていない、役割を全うできていないリーダーもいるという背景がある。360度評価というシステムを取り入れ、客観的、かつ公平な評価に努め、個々と組織の成長に努める。虐待にあった子どものケアを中心としたポリシー作成を継続して進める。予防教育を通し子どもの栄養改善と地域医療スタッフの教育提供（キャパシティビルディング）に努める。退院後にフォローアップが必要な患者さんを支える訪問看護は、退院後の経過観察にとどまらず、看取りや緩和ケアなど、心理社会的サポートを含め、多岐にわたる。院内においても、家族が治療に専念できるよう、寄り添いサポートをするという重要な役割を担っている。しかし、一方で、ケアを必要であるにも関わらず、見逃されてしまっている子がいることも現実であるため、こうした子どもが一人でも減らせるよう努めていきたい。

昨年より海外医療チームとの密な連携が取れるようになったことで、LFHC だけでは実施が難しい手術も可能となった。今後も連携を継続し、手術治療を必要とする子どもたちのケアにあたる。政府及び関係各所との連携も強化し、効果的な事業遂行を図る。

助成事業としては、カンボジアのシェムリアップにある「アンコール小児病院（AHC）」への継続支援を行う。AHC 側とコミュニケーションをとりながら助成事業の対象プロジェクトである「医療教育活動」及び「地域医療支援教育活動」の進捗把握/確認を行う。

日本国内においては、今年団体設立 30 周年を迎えることから、周年事業記念イベントを企画・実施予定。活動を支える支援者や関係者への活動報告会やトークイベント、スポーツ企画等を充実させ、気軽に「支援／関わる」企画を立案、実施していく。企業連携構築も強化し、現地のニーズを伝える機会を設ける。WEB 広告、寄付キャンペーン及び助成金申請を継続して実施し、新規支援者獲得及び安定した運営資金確保に努める。WEB サイト、SNS 運用、年次報告書、パンフレット等を活用し、団体広報及び認知度/知名度強化に繋げる。

## 2. 事業の実施に関する事項

## (1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【105,676】千円)

事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数	事業費の予定額(千円)
助成事業	アジアの恵まれない子供たちの医療支援を目的とする団体へ助成を行う。	通年	アンコール小児病院	390名	1)カンボジア人医療従事者 2)不特定多数のカンボジアの子供、教師や地域住民	12,600
医療施設運営・教育・予防事業	「ラオ・フレンズ小児病院(LFHC)」の運営、医療・教育・予防事業を行う。	通年	ラオ・フレンズ小児病院	200名	1)不特定多数のルアンパバーン地区の子供 2)LFHC スタッフ、他医療施設スタッフ及び患者家族のべ200名以上	61,920

スタッフ派遣事業	専門家を派遣し、スタッフや住民へ医療・予防教育等を行う。	通年	ラオス、カンボジア	1名	現地スタッフ約200名及び不特定多数の地域住民	970
医療物資等運搬事業	病院のために寄贈された物品や備品等の輸送手配や、運搬を行う。	通年	法人事務所、他	5名	不特定多数の医療従事者と患者	3
普及啓発事業	WEBサイトやリーフレット、年次報告書の活用、イベント等で広報に努める。	通年	法人事務所、他	5名	不特定多数の寄付者及び参加希望者	30,183